

2022年3月期第1四半期連結決算 セグメント別損益及び貸借対照表説明

2021年8月10日

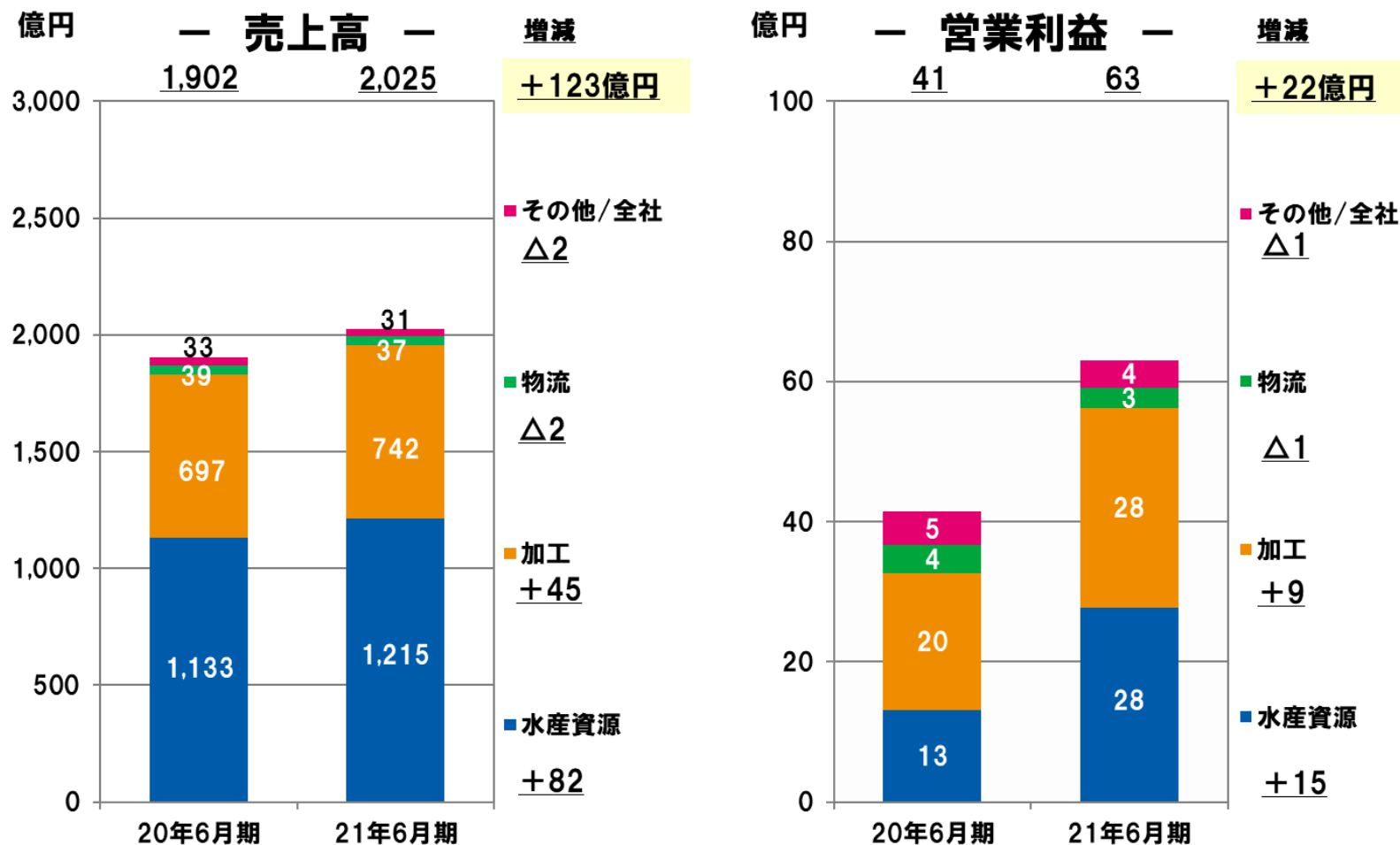


1. 連結損益計算書

(単位:億円)

	21年6月期	20年6月期	増減	主要科目
売上高(収益認識基準適用後)	2,025	1,902	123	
売上原価	1,724	1,634	89	
売上総利益	302	268	34	
販売費・一般管理費	239	226	12	
営業利益	63	41	22	受取配当金 5億円
営業外収益	16	16	0	雑収入 7億円
営業外費用	8	13	△ 5	為替差損 3億円
経常利益	71	44	27	
特別利益	3	0	3	固定資産売却益 3億円
特別損失	7	6	0	固定資産処分損 5億円
税金等調整前四半期純利益	67	38	29	
法人税等	12	9	3	
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	4	0	
親会社株主に帰属する四半期純利益	50	25	26	

2. セグメント別 売上高／営業利益



「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。また、当該会計基準等の適用については、原則として遡及適用されるため、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

3-①. 水産資源セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	高 上 売 (収 益 認 識 適 用 後)					営 業 利 益				
		21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比	21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比
水産資源	漁業	72	83	△ 11	290	25%	△ 1	6	△ 7	11	-
	養殖	32	25	7	133	24%	△ 3	△ 3	△ 0	△ 14	-
	水産商事	371	336	34	1,478	25%	13	4	9	32	41%
	荷受	408	368	40	1,744	23%	1	△ 6	6	5	20%
	海外	333	321	12	1,346	25%	18	12	7	49	37%
セグメント小計		1,215	1,133	82	4,991	24%	28	13	15	83	34%

【前期からの組織変更】

漁業・養殖、商事、海外セグメントを統合。
漁業・養殖ユニットを分割。

漁業ユニット：アジア・オセアニアユニット(現 海外ユニット)より、オーストラリアとニュージーランドの漁業会社を移管。

海外ユニット：アジア・オセアニアユニットと北米・欧州ユニットを統合。

【事業概況】

漁業：カツオの販売は好調であったものの、ニュージーランドでの漁獲減、豪州での高収益商材であるメロの繰越在庫減少による販売減により、減収減益。

養殖：マグロを中心とした量販店向け販売は回復基調。外食・業務筋向け販売不振によるカンパチ相場下落により増収減益。

水産商事：量販店、宅配、医療機関・高齢者施設向けの堅調な販売に加え、鮭・鰯・ホタテ・エビ類等の相場上昇により利益幅が改善し、増収増益。

荷受：魚価下落により取扱数量が増加し増収、主に冷凍品の利益率が改善し、増益。

海外：北米鮭・鰯事業撤退、欧州販売会社への追加出資による子会社化やアフターコロナ期待の販売増、タイのペットフード事業の好調に加え、ベトナムでの加工販売会社の買収により増収増益。

3-②. 加工セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)					営業利益				
		21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比	21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比
加工	家庭用冷凍食品	131	128	3	506	26%	6	2	4	19	32%
	家庭用加工食品	87	95	△ 8	358	24%	8	10	△ 1	24	33%
	業務用食品	278	252	26	1,190	23%	5	△ 1	6	22	23%
	畜産	200	182	18	688	29%	3	4	△ 1	10	30%
	化成	46	41	5	180	26%	5	4	1	19	26%
セグメント小計		742	697	45	2,922	25%	28	20	9	94	30%

【前期からの組織変更】

畜産ユニット：商事セグメント(現 水産資源セグメント)より移管。

【事業概況】

家庭用冷凍食品：前年における内食需要急伸の反動による米飯・麺・ピザ・グラタンの減収を、学校再開により復調した主力の弁当品が補い、増収増益。

家庭用加工食品：デザート事業は業務用が好調に推移したものの、缶詰、レトルト、フィッシュソーセージ事業は前年における需要増の反動が大きく、減収減益。

業務用食品：前年に大きな苦戦を強いられた給食や外食業態向けは回復傾向。量販店惣菜、コンビニエンスストア、介護食向けも堅調に推移し、増収増益。

畜産：鶏肉と輸入豚肉が相場高を背景に在庫回転率が上がり増収となったものの、牛肉及び北米産豚肉の原価高騰によって利益が確保できず、増収減益。

化成：DHA・EPA及び医薬用コンドロイチンの販売が好調に推移し、増収増益。

3ー③. 物流セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)					営業利益				
		21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比	21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比
物流	物流	37	39	△ 2	165	22%	3	4	△ 1	18	17%

【事業概況】

新型コロナウイルスの影響が続くなか、水産品をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷活動を行い収益の確保に努めたものの、在庫数量及び保管在庫数量が前年より減少。また、2021年4月の名古屋物流センター開業により減価償却費等が増加したため、減収減益。

4. 連結貸借対照表

資産の増加(178億円): 季節的な要因によるたな卸資産の増加と未収入金によるものです。有形固定資産は、不動産売却とグループ会社の圧縮記帳により減少しました。負債の増加(100億円): 販売増加に伴う仕入債務増と、借入金の増加によるものです。

* 2021年3月末の数値は、収益認識基準適用後の数値に組み替えております。

(単位: 億円)

	21年6月末	21年3月末	増減		21年6月末	21年3月末	増減
流 動 資 産	3,203	3,005	198	流 動 負 債	2,197	2,140	57
現預金	274	316	△ 42	仕入債務	403	343	60
売上債権	1,123	1,026	97	短期借入金	1,335	1,359	△ 24
たな卸資産	1,676	1,566	110	その他	458	438	20
短期貸付金	3	3	0	固 定 負 債	1,565	1,522	43
貸倒引当金	△ 6	△ 4	△ 2	長期借入金	1,285	1,239	46
その他	133	99	34	その他	280	283	△ 3
				負 債 合 計	3,762	3,662	100
固 定 資 産	2,304	2,324	△ 20	株 主 資 本	1,415	1,381	34
有形固定資産	1,449	1,479	△ 30	資本金	200	200	0
無形固定資産	207	199	8	剰余金	1,215	1,182	34
(内 のれん)	83	79	4	自己株式	△ 1	△ 1	△ 0
投資その他資産	648	645	2	そ の 他 包 括 累 計	75	44	31
				非 支 配 株 主 持 分	255	242	13
				純 資 産 合 計	1,745	1,667	78
資 産 合 計	5,507	5,329	178	負 債 純 資 産 合 計	5,507	5,329	178

【ご参考】

自 己 資 本	1,490	1,425	65
自 己 資 本 比 率	27.1%	26.7%	0.3

参考資料

▼2022年3月期 第1四半期 セグメント別実績

(単位：億円)

	売上高					営業利益				
	21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比	21年6月期	20年6月期	増減	年間計画	計画比
水産資源セグメント	1,215	1,133	82	4,991	24%	28	13	15	83	34%
加工セグメント	742	697	45	2,922	25%	28	20	9	94	30%
物流セグメント	37	39	△ 2	165	22%	3	4	△ 1	18	17%
その他	31	33	△ 2	122	25%	3	2	0	5	60%
全社	0	0	0	-	-	1	2	△ 1	0	-
合計	2,025	1,902	123	8,200	25%	63	41	22	200	32%

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
メール：ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。